

おうきゅう きゅうきゅうしゃ よ
応急 手当の方法と救急車の呼び方

さいがい 災害にあったとき、手当をしたくても 普段のよう^{ふだん}に水や薬品が近くにあるとは限りません。身の周り^{かぎ}にある物を使って、できる限りの 応急 手当^{おうきゅう}をすることも必要です。いろいろな 手当の方法を知り、災害時^{さいがいじ}に備え^{そな}ましょう。またたおれている人^{かくにん}や大けがをした人のために救急車の呼び方について確認しておきましょう。

1 いろいろな応急手当の方法を知りましょう

① 骨折^{こっせつ}している場合の手当

はじめにどこがいたいのかを聞きます。いたがっているところを見て、変形しているかどうかを確認します。変形している場合は動かしてはいけません。骨折しているところに、そえ木をあてて三角巾などで固定します。

そえ木の工夫：ダンボール、雑誌、傘、つえなど



② 傷^{きず}の手当

傷口がよごれている場合は、水道水^あで洗うことが大切です。災害時はペットボトルなどの水を工夫して使いましょう。

出血が続いている場合は、血液に直接^{けつえき}ふれないようにビニルの手ぶくろをはめて、傷口^{きずぐち}をおさえるか、きれいなガーゼを当てて血を止めるようにします。

ガーゼの工夫：ハンカチ、タオル、身近にあるきれいな布^{ぬの}など



③ やけどの手当

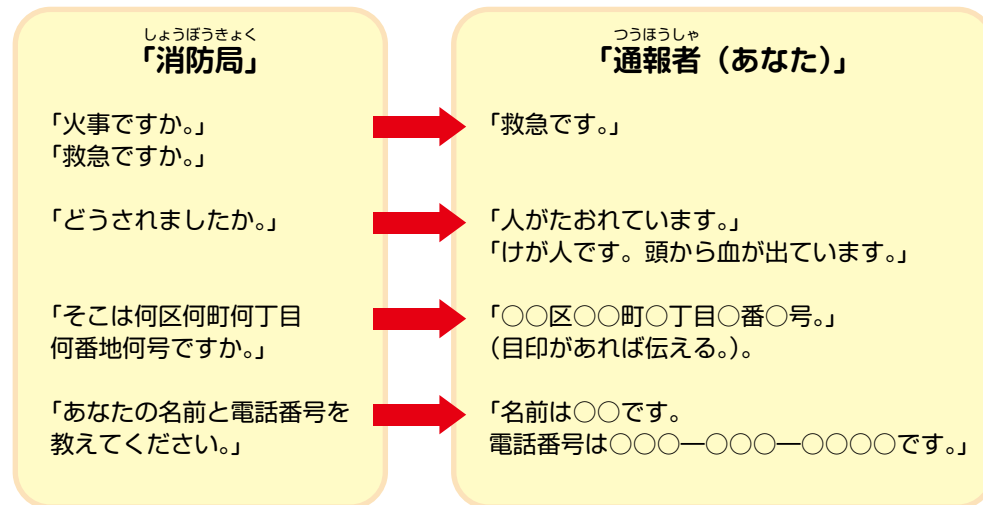
すぐに水で冷やします。服を無理にぬがさないで、服の上から水で冷やします。細菌^{さいきん}が入らないように、水ぶくれができてもつぶさないようにします。



2 救急車の呼び方を覚えましょう

<119番へ電話をかける>

まず落ち着いて、局番なしの119に電話する。係の人の質問^{しつもん}にははっきり答えましょう。



けいたい 携帯電話からの通報^{つうほう}では次のことに気を付けましょう。

- ① 携帯電話から通報していることを伝えます。
- ② なるべく現場からはなれないようにし、携帯電話の電源^{でんげん}も入れたままにします。



? 考えよう

- 緊急時の応急手当の仕方についてもっと調べてみましょう。
- 救急車への通報の仕方が分かったら、実際^{じっさい}にかけているつもりで話してみましょう。